

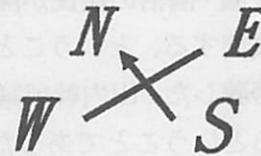
藤沢

2015年10月1日

第257号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主な記事

- ・被爆問題を根本から見つめ直す
- ・9月藤沢市議会を傍聴
- ・におい・けむりの被害をなくそう
- ・気象情報 ・放射能測定地

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

20年目のふじさわ環境フェア

11月21日土曜日、藤沢市民会館で開催の「ふじさわ環境フェア」は今年で20回目を迎えます。人で例えるなら成人するほどの年月を重ねた環境フェア。今ではどの自治体でも行われているほどですが、当時は地方都市での開催など聞いたことのないものでした。そしてエコネットの関係者なら当然、このふじさわ環境フェアの前身が「藤沢エコネット展」である事も覚えているはず。

今でもその流れをくみ、市が主催でありながらも参加団体や大学や企業から実行委員が集まり、運営を進めています。20年間で変わった事もありますが、単に展示をするだけではなく、市民参加で作っているのは変わっていません。

そんな20年目の環境フェア、今年は初めて藤沢市民会館のすべてを利用しての開催となりました。9時50分から前庭でのオープニングセレモニーで始まり、第1展示（省エネや堆肥、環境配慮商品など温暖化防止、気候変動系）と第2展示（水、緑、動植物など自然系）での展示や体験、多目的広場と前庭では藤沢産の食材などを使い環境に配慮した食べ物の販売やトイレトーパー取りゲームにリサイクル品販売など、いつもと変わらぬメンバーに新たなメンバーを加えて皆様のご来場をお待ちしています。

さらに大ホールでは12時より環境クイズ王決定戦（特に小学生が楽しんでくれています）、13時から第2会議室で放射能の学習会、20周年の目玉として、雪の降り方から温暖化、気候変動を憂慮するオリンピック金メダリストの荻原健司さん（ノルディック複合）の講演会が小ホールで行われます（藤沢市生活環境連絡協議会の市民大会との共催）。終了は15時半、開催まであと2ヶ月を切り、準備から当日まで想いが伝わるように頑張ります！そしてこの世のみんなの想いが、環境配慮にさらに重きを置きますように。

企画運営委員会委員長 青木正美（環境経済NPO
パシフィックエコサービス代表）



ゴイサギ(日大ピオオーブにて) 宮地氏提供

9月藤沢市議会定例会を傍聴

私たち片瀬山や片瀬・鶴沼の住民が関わっている横浜藤沢線について質問する、ということなので、メンバーといっしょに傍聴した。山内幹郎議員の一般質問が9月16日にあるということであった。

山内議員は、初めに、私たちの会が一般市民に理解していただくために出したパンフ「この道本当に必要ですか」の一部を参考にして、ご自分の基本的姿勢を示された。つぎに、横浜藤沢線は都市計画されている、とはいうものの、手続き上に問題があるのではないか、と疑義を述べられ、引き続き調査していくつもりである、と締めくくった。

続いて「このような道路計画は、国際競争力強化など、一極集中の国の施策そのものではないか」と考えを述べ、市の意見を求めた。

市の回答は、「藤沢市の交通マスタープランでは、人口減少や少子高齢化社会などの変化する社会状況に対応するため、歩くことを第一に、だれもが暮らしやすく働きやすい総合交通体系の確立を目指して、将来の交通像は『ヒト・モノ・まちが繋がる都市—藤沢』を目指している」と説明された。

わたしはこれを聞いて、それこそ私たちの希望であり、目指している街像である、と強く感じた。ならばこそ、当時と家も条件も変わってしまった60年前の道路を、今になって何故、まだ作ろうとするのか、理解できないと思いが広がってくる。

大きな四車線の道が、地域を壊すことは、想像するだけでも解ることであろう。

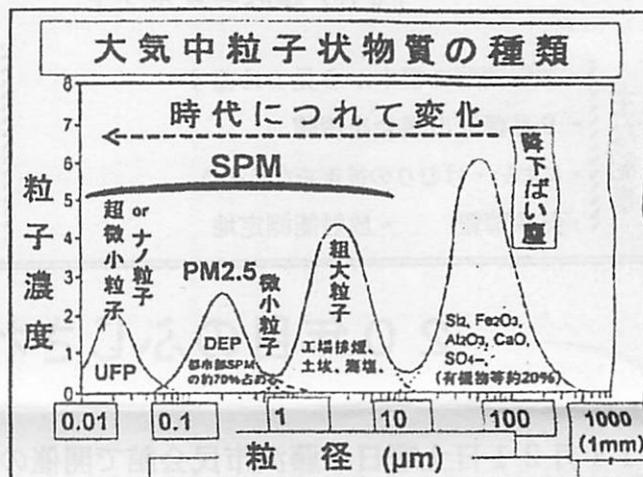
もう一つのテーマ「大気汚染と喘息の関係—大気汚染は改善しているのに喘息患者が増えているのはおかしい論」の著者嵯峨井 勝氏の論を上げながら、山内議員の得意専門分野、データーを解りやすく、グラフや図表にして説明した。そして、大気汚染は減っているのに、もっと微粒子になったナノ微粒子汚染がこれからの重要問題になると警告した。

グラフを見ながら、御所見、湘南台などの、比較的自然が残っている地域の子どもの喘息有症率が高くなっている推移に、不安を覚えた。

フォルクスワーゲンのディーゼル車の不正排ガスによる環境汚染物質の問題も、最近明らかになった。ま

すます、私たちは、そのことに、注目していかなければならないと思う。勉強家の山内議員、ますます、腕を磨いて、市民のために発言してください。

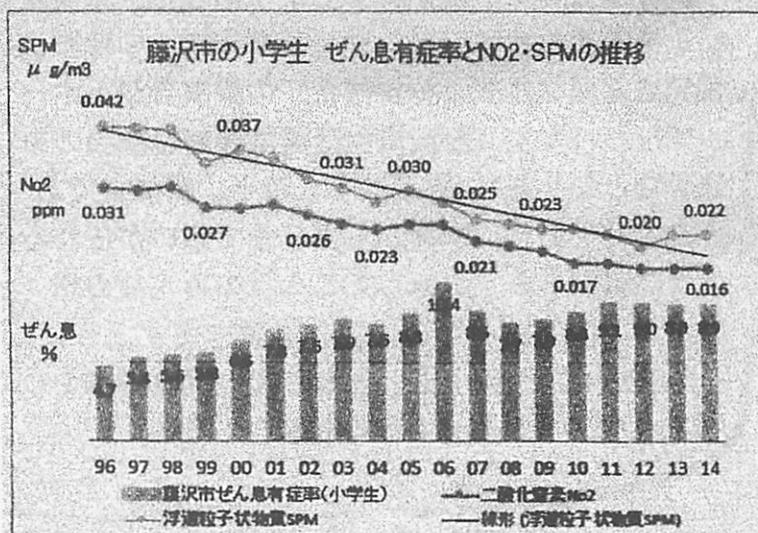
(飯田玲子)



藤沢市学校保健課資料より

	r ²	r	t	検定
藤沢市 SPM	0.94	0.97	16.32	p < 0.001
藤沢市 ぜん息	0.71	0.84	6.45	p < 0.001

d.f.=17
検定 2.110以上は有意



「被ばく問題を根本から見つめ直す」 映画と監督早川正美氏講演

フクイチ原発事故から4年半、今も放出されている放射性物質によって地球は汚染され続けています。おおまかに言えば、大気中に広がった放射性物質は雨や雪でときどきフォールアウトしながら地球の空を回り続け、海へ流れ出た放射性物質はアメリカ大陸西海岸へ到達し、さらに広がり続けています。これほどの核汚染が起こることを誰が予想したのでしょうか？

2013年UNSCEAR（原子放射線に関する国連科学委員会）は、フクイチ原発事故による放射性物質の大気への放出量をヨウ素についてはチェルノブイリの10分の1、セシウム137についてはチェルノブイリの5分の1と発表し、それがあたかも真実であるかのようにメディアは大きく報道しました。これに対してWHO元顧問のキース・バーヴァーストック氏をはじめさまざまな批判がなされていますが、批判についての報道はほとんどありません。日本人の大半は過小評価された放出量をうのみにしたのではないのでしょうか。

また、UNSCEARは東電原発事故による健康被害は「心理的・精神的な影響が最も重要だと考えられる。甲状腺がん、白血病ならびに乳がん発生率が、自然発生率と識別可能なレベルで今後増加することは予想されない。また、がん以外の健康影響についても、今後検出可能なレベルで増加することは予想されない。」と報告しました。小児甲状腺がんとその疑いが137名となった今、この報告書がいかにマユツバものであるかは、みなさまよくおわかりだと思います。

けれど、UNSCEAR報告が、日本国内でも国際的にも公式見解としてまかり通っているのです。

放射線被ばくによる健康被害の隠蔽は今にはじまったことではありません。

被ばくによる健康被害は原爆投下後から隠蔽され続けましたが、今でもそのヒロシマ・ナガサキのデータを基にした防護基準が採用されています。

11月3日の映画上映と講演会は、1982年制作の映画「ヒロシマ・ナガサキ核戦争のもたらすもの」（文部省特選など数々の賞を獲得した作品）を上映し、映画を監督した早川正美氏にご登壇いただきます。

原爆投下後から、どのような隠蔽があったのか、国際的な放射線防護基準とはなんなのか、どういう問題があるのか、日本政府の政策のどこがおかしいのか、など「被ばく問題を根本から見つめ直す」会にしたいと思っております。

（須藤百合子）

におい・けむりの被害をなくそう

引地川親水公園を民間業者のバーベキュー場（BBQ）としないための署名活動をしています。

6月議会の一般質問において、「親水公園におけるBBQの解禁を」という質問に対し、市は「公園利用の多様化」「BBQ可能場所の問合せ」等を理由に「試行」を行い、その結果のアンケート調査により、可否を判断したいと答え、9月の連休において4日間の「試行」が行われました。

都市公園での火気の使用は原則禁止であり、これまでも市は親水公園でのBBQを禁止してきました。そのことは注意看板に明記されています。

その姿勢を一転して、給排水設備を公費を投じて設置し、BBQ業者に管理運営を委託し、利用する市民から「正しいBBQの指導」を名目に、業者が使用料を取る業者丸投げのBBQ場の建設を行なおうと目論んでいます。

地元の大庭東町は99%の市民が反対の意思を表明しており、大庭と善行と近隣の3つの保育園、8つの幼稚園は、子どもたちの安全な環境を守るために、保護者と共にBBQ場反対の立場におられます。

親水公園は、子どもたちの遠足や、ご高齢の方の散歩や、健康管理のランナーや、写真・音楽・絵画などの趣味の場として広く利用されています。

そのコミュニティの中心となっている親水公園を、駐車場の問題も、夜間の安全確保も、法律上の適用除外も先送りをして、「試行」による利用者のアンケート結果を根拠に、貴重なみどりの広場や空間を破壊しようとしています。市長は、賛否のある事項については、その大勢をみながら判断するとしていますので、私たちは、反対の立場から署名活動を開始いたしました。一筆でも多くの署名をお願いいたします。

（親水公園ファンクラブ事務局 袖岡三津男）

気象情報 発達する低気圧に関連して

気象庁では、日本列島に上陸する台風、接近する台風、その他の台風に分けて情報を提供している。10月上旬の段階だが、2015年に接近または上陸した台風は21個発生し13個が接近または上陸した。このうち上陸は4個だ。2000年以降16年間の統計で、過去1年に4個上陸したのは2004年の10個（発生は29個、接近は19個）、2014年の4個（発生は23個、接近は12個）だ、2004年は非常に多くの台風が上陸した特異な年だった。今年は、これからの台風シーズンを控えて、さらに上陸数が増えるかもしれない。台風上陸の多い年になるだろう。

気象用語の定義は若干複雑だ。台風や熱帯低気圧とは違う温帯低気圧について、極端に発達するものを爆弾的圧と呼ぶ。説明を要するが、簡単に言うと24時間以内に24hPa低下する急速に発達するものを指す。

温帯低気圧なので、一年中発生し、激しい風雨だけでなく大雪をもたらす。農業に甚大な被害を、しばしば人間の生命にも危険をもたらす。

急速な発達の原因は、日本近海の高い海面温度と、上空で北から進入する寒冷な気塊の存在である。つまり、下方が加熱されて上方が冷やされるため、鉛直方向の大気成層状態が不安定なことで急速に発達する。強い不安定状態は、強い運動エネルギーを生み出すのだ。

この種の不安定性は無限に加速されない。下方から上昇する気流にとりこまれた水蒸気が、上層で結露して雲を作ると、上層で熱エネルギーを放出して周囲の空気を暖めることになる。すると、最初に上空に存在した冷気塊は変質して暖まり不安定性は弱まる。水蒸気の移動は、熱輸送のポンプの役割を果たしている。自然界は、良くできている。ここで、しかし安心はできない、と付け加えておこう。従来の機構が反転して、現象を加速させるモードに転換することが懸念されるようになった。地球温暖化の過程でこうした懸念が現れている。

(林 陽生)

放射能測定値

9月中に測ってみました(晴れの日)

(HORIBA Radi) 単位(μSv/h)

湘南台公民館 2階	0.061	1階	0.051
〃 地下1階	0.060	地下2階	0.071
辻堂駅南口マンション1階	0.045	2階	0.036
	3階		0.031

津波と防災-湘南の場合-

講師 川崎 健さん(東北大学名誉教授)

11月7日(土) 14:00~

市民会館第1展示ホール 参加費 700円

主催 湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

協賛 藤沢エコネット 湘南学習会議

連絡先 0466-82-2036



藤沢環境フェア 11月21日 市民会館で開催

職場め止め (いくさばめとうどうみ)

10月28日(水) ①10:00 ②14:30 ③19:00

茅ヶ崎市民文化会館小ホール 前売り券 800円 ☎0467-53-4448

第48回みんなの消費生活展

11/14~15 10:00-17:00 明治市民センター健康

プラザ 主催/問合わせ 藤沢市 0466-25-1111(2592)

被ばく問題を根本から見つめ直す

映画「ヒロシマ・ナガサキ~核戦争がもたらすもの」

上映 監督 早川正美さんのお話

とき 11月3日(火・祝) 14:00-16:30

場所 日本大学生物資源科学部(六会日大前徒歩3分)

共催 日本大学生物資源科学部(糸長・小林研究室)

福島の子どもたちとともに湘南の会

(13:00 -13:50 総会)



藤沢エコネットから

◆会員募集=年会費・購読料→3000円

◆事務局会議 10月9日(金) 14:00~

市民活動推進センター

〈編集後記〉大きな満月、スーパームーンを見た、きれいだった。9月19日未明、「戦争法案」が参議院で強行採決されたことは特記しなければならない出来事だった。多勢の若者や学生、市民等が反対の声をあげている中である。「だれの子どももころさせない」プラカードを掲げて、雨の中集まった若いママたちの姿に胸を打たれる。そんな中で「終わりじゃない、始まりだ!」の声をあげている SEALDs の「あきらめない」宣言があったことはうれしい。(H)